

## ボツワナ共和国月報(2020年9月)

### 主な出来事

#### 【内政】

- ジェンダーに基づく暴力(GBV)への対応措置に関するマシシ大統領による声明発表
- ゾウの大量死の原因は藍藻に関連づけられる

#### 【外政】

- 南アフリカとの関係悪化
- ボツワナと日本、森林・草原資源の保全と持続可能な利用のための能力強化プロジェクトに関する同意書に署名する

#### 【経済】

- 海外直接投資、400以上の雇用を創出する
- ナタ・マウン間道路改修工事に係る中国との借款交渉決裂
- ボツワナの若年者失業率、SADC地域で4番目に高い
- ボツワナの 아프리카・インフラ開発指数で第10位

※当地メディア記事等を任意に引用した内容です。

#### 【内政】

##### ○ ボツワナ、SADC諸国の中で3番目にHIV感染者が多い国

SADCはあらゆる側面からHIV予防及び管理に力を入れ、多くの進捗があったにも関わらず、南部アフリカは未だHIVによって影響を受けている。2020年ジェンダー・バロメーターによると、全世界におけるHIV感染者の中で、45%の感染者がSADC地域に居住している。また、SADC加盟国の中でも、スワジランド(ママ)のHIV感染率が最も多く、同国内人口の27%がHIVに感染している。次いでレソトが22.8%、ボツワナが20.7%、南アが19%、ジンバブエが12.8%である。(6日:サンデースタンダード紙 4面)

##### ○ 南部アフリカにおけるサバクトビバッタの大量発生、食料安全を脅かす

国連食糧農業機関(FAO)は、サバクトビバッタの大量発生がボツワナ、ナミビア、ザンビア及びジンバブエの人々の生活及び食料安全保障を脅かす旨警告した。FAOの報道発表によると、2019年の干ばつ及びCovid-19による経済への影響から未だ回復途中に同4か国は、サバクトビバッタによって更なる影響を受けるとされており、約700万人の人々が食料不足及び栄養失調となる可能性があるとした。(7日:デイリー・ニュース紙 2面)

### ○ ジェンダーに基づく暴力(GBV)への対応措置に関するマシシ大統領による声明発表

18日、マシシ大統領は国民に対してボツワナで多発するジェンダーに基づく暴力(GBV)に関する声明を発表し、より厳格な罰則の導入や、全ての犯罪者の名前及び個人情報を記録し公表するための登録制度の確立を提案する性犯罪者法案を11月の国会に提出すると述べた。(21日: デイリー・ニュース紙 3面)

### ○ ゾウの大量死の原因

ルーベン・マトリ野生動物・国立公園局主任獣医(principal veterinary officer)は、本年4月から7月にかけて発生した330頭のゾウの死因が藍藻(当館注: 藍藻の一部には毒素がある)に関連付けられると述べた。また、同主任獣医は、藍藻はゾウにだけ影響を与え、同じ場所の水を飲んだり、ゾウの死骸を食べたりした動物及びハゲワシに影響はなかったとし、また、病理学的評価では、ゾウの死因に感染症が関連しているという重要な証拠は見つけれなかったと述べた。(22日: デイリー・ニュース紙 3面)

### ○ COVID-19ゾーン間の移動制限

25日、ボツワナ政府は国内のCOVID-19の感染拡大状況及び「ボツワナの日」を含む連休を迎えることを踏まえ、25日(金)時点で発行されているCOVID-19ゾーン間の移動許可証は即刻無効となることを発表した。また、翌26日、同25日時点で許可済みの旅程については、同移動許可証をもって移動が可能となるなどの例外規定を発表した。(25日及び26日: ボツワナ保健省報道発表)

## 【外政】

### ○ 南アフリカとの関係悪化

8月30日付サンデースタンダード紙は、カーマ前大統領及び南アフリカのブリジット・モツェペ氏の関与が疑われる1,000億プラのマナーロンダリング事案に関し、ボツワナ政府が外交筋を通じてではなくAfriForumというNGOを通じて南アフリカ政府に刑事共助を求めたことで関係が悪化していると報じた。また、8月28日付ボツワナ・ガーディアン紙は、本件によりボツワナ民主党(BDP)と南アフリカの 아프리카民族会議(ANC)の関係も危機に瀕していると報じた。(8月28日: ボツワナ・ガーディアン紙 1面、8月30日: サンデースタンダード紙 2面)

**○ ボツワナと日本、森林・草原資源の保全と持続可能な利用のための能力強化プロジェクトに関する同意書に署名する**

環境・天然資源保護・観光省及びJICAは、「マスタープラン策定を通じた森林・草原資源の保全と持続可能な利用のための能力強化プロジェクト」に関する協定に署名を行った。5日、ハボロネ市で行われた署名式にて、コボト環境省次官は「同プロジェクトは、ボツワナの森林分野をさらに強化するためのものである。また、今般の式典は、約8年前にボツワナと日本が森林資源の保全及び持続的な管理における協力の交渉を始めた際からの多大なる努力の賜物である」と述べた。また、山田JICA支所長は、同プロジェクトの目的は、持続可能な森林・草原資源の管理のためのボツワナの環境・自然資源保全・観光省森林・草原資源局の能力強化である旨説明した。(11日: デイリー・ニュース紙 4面)

**○ ボツワナ、中国の支援に感謝する**

10日、ハボロネ市にて、ムティムクル大統領府・統治・公共政策担当副大臣、ディコロティ保健大臣、モルワエン大統領府・統治・公共政策担当大臣及びヤンボ当地中国大使臨席の下、中国からの医療機材引渡式典が行われた。「モ」大臣は、中国の引き続きの支援及び中国も同様にCovid-19の問題を抱えているにもかかわらず、中国国民が、ボツワナ国民に対して、中国の医療機材を供与してくれたことに謝意を述べた。中国大使館は、人工呼吸器80機、酸素発生器70機、非接触型体温計600個、N95マスク3万枚及び医療用マスク5万枚を供与した。(14日: デイリー・ニュース紙 2面)

**○ マシシ大統領、国連特別総会への参加**

21日、ハボロネ市にて、マシシ大統領は、ビデオ会議で開催された国連特別総会に参加した。同会議にて、マシシ大統領は、COVID-19と闘う上で、世界の努力を集結させる国連のような機関が重要である旨を強調した他、加盟国に対して、COVID-19のみならず、あらゆる人道的な苦難に打ち勝つために共働し続ける必要がある旨述べた。(23日: デイリー・ニュース紙 2及び3面)

**○ ボツワナ、持続可能な開発に関する世界首脳会議へ参加**

21日、マシシ大統領は、クワペ外務大臣、セラメ投資・通商産業大臣、レツォラテベ高等教育大臣とともに、世界の首脳、政府、民間企業及び市民社会専門家とともにテレビ会議による持続可能な開発に関する世界首脳会議に参加した。第75回国連総会のサイドイベントとして開催された同サミットの目的は、持続可能な開発アジェンダ2030、貧困削減、パリ気候変動条約及び2030年までの持続可能な発展の達成という世界的なコミットメントを加速させることであった。(23日: デイリー・ニュース紙 3面)

【経済】

○ ボツワナの主要経済指標

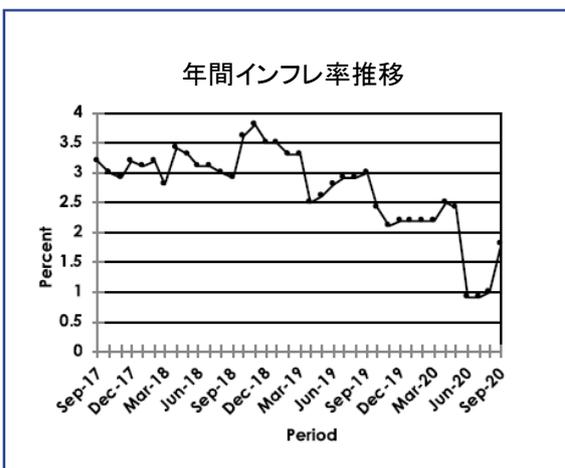
1) 経済成長率(出典:ボツワナ統計局)

2020年第2四半期(4~6月)の GDP は368億6350万ブラとなり、2020年第1四半期(507億2650万ブラ)と比べて27.3%減となった。(2019年GDP合計(歴年)は1972億6870万ブラ)



2) 年間インフレ率(出典:ボツワナ統計局)

2020年9月は1.8%(8月は1.0%)。



3) 為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

2020年9月30日

1ブラ=0.083米ドル

1ブラ=1.41南ア・ランド

1ブラ=8.87円

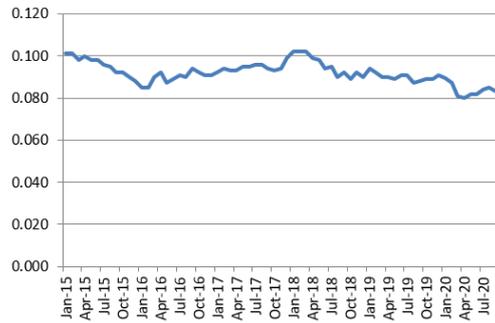
2020年8月31日

1ブラ=0.085米ドル

1ブラ=1.39南ア・ランド

1ブラ=9.07円

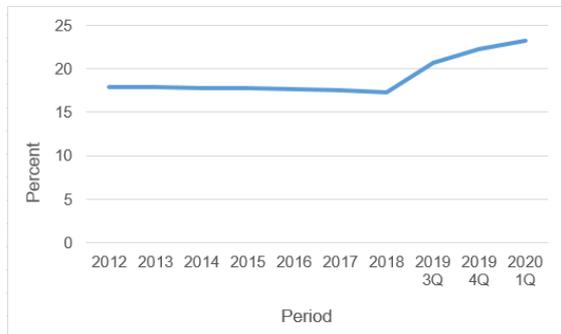
[米ドル] 為替推移(1プラ=〇米ドル)



[円] 為替推移(1プラ=〇円)



#### 4) 失業率(出典: Statistics of Botswana 及び World Bank)



##### ○ 中国企業によるモルプレB発電所の自費改修工事

中国企業China National Electric Engineering Corporation(CNEEC)社は、数十億米ドルにもものぼるパラベにおけるモルプレB発電所の建設の主要契約者であったものの、完了遅延の他、合意した基準及び品質を遵守しなかった。そのため、ボツワナ電力公社(BPC)及びCNEEC社間に緊張が走り、中国・ボツワナ間の大きな外交騒動に発展するのも時間の問題であると言われていた。現在、CNEEC社は自社負担で補修工事を行っており、BPCは予定されていた維持管理費のみを支払っている。同電力施設が未完成であることにより、ボツワナ政府は、南アの電力会社であるエスコムから途方もない金額の電力の買い付けを強いられている。(8月28日:ボツワナ・ガーディアン紙 3面)

##### ○ 海外直接投資、400以上の雇用を創出する

8月31日、国会にて、セラメ投資・通商産業大臣は、2018/2019年度期間中、海外直接投資によって、異なる部門に亘る30の企業が431以上の雇用を創出し、また、銀行サービス部門の予想を超える業績により、32億プラを超える投資額がボツワナに流入した旨述べた。(2日:デイリー・ニュース紙 ビジネス面)

### ○ 6月の輸入、南アが主な取引先

ボツワナ統計局によると、ボツワナの輸入先として、南アは未だに主要な取引先となっている。6月、ボツワナの総輸入の61.6%を南ア、12%をナミビア、6.5%をベルギー、4.6%をロシアが占めていることが明らかになった。6月の輸入額は、5月(修正後)の49億8,910万プラから45.4%増加し、72億5,180万プラとなった。また、同月におけるボツワナの輸入経路は、陸路による輸入が40.4%、空路が38.5%、鉄道が21%である。(4日:ボツワナ・ガーディアン紙 2面)

### ○ 6月の輸出、5月に比べ70%下がる

ボツワナ統計局によると、ボツワナにおける6月の輸出収入額は、5月(修正後)の31億7,200万プラから70.3%下落し、9億4,350万プラとなった。同輸出額の大幅な下落は、ダイヤモンドの輸出が減少したこと起因している。(4日:ボツワナ・ガーディアン紙 2面)

### ○ ナタ・マウン間道路改修工事に係る中国との借款交渉決裂

ボツワナ政府は、6月から続いていた合意条件の交渉に行き詰まったことから、中国から提案されたナタ・マウン間の300キロに及ぶ道路改修工事のための借款を断念した。同交渉が行き詰まった理由の1つは、元請け企業の選定とされている。8月31日、マンドウレベ財務省次官は(以下「マ」次官)、国会会計委員会に対して、運輸通信省が、道路改修のための中国からの借款の可能性を考えていたものの、借款の条件が合わず断念した旨述べ、本件の緊急性に鑑み、ボツワナの財源を利用することと、本件に係る補正予算案を国会に提出する予定である旨述べた。「マ」次官はさらに、中国が2019年5月に実施した実現可能性調査(F/S)及び報告書を元に、借入条件の交渉を始めたものの、交渉は堂々巡りであり、プロジェクトを早期に開始しなければならないと判断したと述べ、「中国は、財務条件の範囲を超えた、中国企業の利用などの独自の条件を求めており、そこで我々は相反した。」と述べた。(4日:メヒ紙 ビジネス面)

### ○ ボツワナの若年者失業率、SADC地域で4番目に高い

SADC地域で4番目に大きい経済であるボツワナは、若年者失業率も高い。アフリカ開発銀行の報告書によれば、13か国中若年者失業率が最も高い国は南アの53.2%、次にエスワティニの47.4%、ナミビアが44.8%、ボツワナ37.5%、そしてレソトが33%であった。(27日:サンデースタンダード紙 3面)

### ○ ボツワナの 아프리카・インフラ開発指数で第10位

ボツワナでは電力や水の供給において深刻な問題があるにもかかわらず、アフリカ開発銀行が手がけるアフリカ・インフラ開発指数において、ボツワナは未だに上位10位以内に入っている。同指数は、運輸、電力、ICT、水、及び衛生の項目を含んでおり、成績上位から順に、セーシェル、エジプト、リビア、南ア、モーリシャス、チュニジア、モロッコ、アルジェリア、カーボベルデ、そしてボツ

ワナである。(27日:サンデースタンダード紙 2面)